

平成30年8月三木市教育委員会（定例会）会議録

1 開催日程

- (1) 開 会 平成30年8月17日（金）午後3時00分
(2) 閉 会 平成30年8月17日（金）午後5時20分

2 場 所 三木市役所 5階 大会議室

3 議事日程

- 第 1 会議録署名委員の指名について
第 2 会議録の承認について
第 3 会議の非公開の決定について
第 4 第3号議案 三木市立認定こども園等の設置及び管理等に関する条例の一部を改正する条例の制定に係る教育委員会の意見について
第 5 協議事項5 平成29年度の三木市教育委員会の事務の管理及び執行の状況に関する点検・評価報告書（案）について
第 6 報告事項 各課の所管事項について
第 7 次回定例会の開催日程について
第 8 その他

4 出席者

教 育 長	西 本 則 彦
委 員	井 口 徹
委 員	石 井 ひろ美
委 員	浦 崎 秀 一
委 員	大 北 由 美

5 欠席者 なし

6 事務局出席者

教 育 総 務 部 長	石 田 英 之
教 育 振 興 部 長	奥 村 浩 哉
教 育 振 興 部 次 長	岩 崎 恵

教育総務課長	五百蔵	一也
教育施設課長	長池	陽作
文化・スポーツ課長	森本	雅彦
学校教育課長	生田	淳仁
教育センター所長	大東	豊
教育・保育課長	正心	均
生涯学習課主幹	河端	康
図書館長	伊藤	真紀
人権推進課長	辻田	政顕
子育て支援課係長	森本	勝也
教育総務課係長	能出	真一
教育総務課	澤田	静香

7 傍聴者 なし

開 会

教育長が、平成30年8月三木市教育委員会定例会の開会を宣言した。

日程第1 会議録署名委員の指名について

教育長が、三木市教育委員会会議規則第28条の規定により、本日の会議の会議録署名委員に、石井委員と浦崎委員を指名した。

日程第2 会議録の承認について

教育長が、平成30年7月定例会（27日開催）の会議録について委員に諮り、全員一致で承認された。

日程第3 会議の非公開の決定について

教育長が、議事の進行について委員に諮り、第3号議案の「三木市立認定こども園等の設置及び管理等に関する条例の一部を改正する条例の制定に係る教育委員会の意見について」は、市議会への提出案件であるため、三木市教育委員会会議規則第5条第1項ただし書の規定により、

非公開で審議することについて委員に諮り、同意された。

日程第5 協議事項5 平成29年度の三木市教育委員会の事務の管理及び執行の状況に関する点検・評価報告書（案）について

○五百蔵教育総務課長が次のように説明した。

前回7月定例会で協議いただき、その際のご指摘を基に修正した。また、本編を基に概要版を作成した。本編の中で、特に重要と思われる項目を抜粋して編集している。最終ページには、第2期三木市教育振興基本計画の各施策の数値目標を抜粋して掲載している。

「平成29年度点検・評価報告書修正箇所一覧（平成30年7月27日定例会指摘分）」は、前回の定例会で委員の皆様からご指摘を受け、今回修正を加えた内容の一覧である。

「平成29年度点検・評価報告書修正箇所一覧（外部評価者指摘事項）」は、平成28年度の点検・評価において、外部評価者から課題等の指摘を受けた箇所について、反映した内容の一覧である。

いずれも修正箇所が多く、個々の説明は割愛させていただき、主要なもののみ説明させていただく。修正箇所には、網掛けをしている。

一覧にない箇所で、網掛けをしているところは、内容を精査し、事務局で追加、修正等を行った箇所である。

「平成29年度点検・評価報告書修正箇所一覧（平成30年7月27日定例会指摘分）」1ページの上から二つ目で、「はじめに」で挙げている「平成29年度に取り組んだ施策が、本文中に反映されているか」について説明する。

「学校環境のあり方の検討について」は、報告書の43ページの「(5) 小規模校の良さを生かした学校規模に応じた教育環境の充実」「イ 学校の適正規模・配置の検討」に記載しており、前回からの変更はない。

「幼保一体化計画の推進について」は、報告書の16ページから18ページに記載している。本文の内容について、前回の定例会で指摘を受け、一部修正している。「学力向上対策について」は、報告書の20ページから21ページにかけて記載している。前回の定例会で指摘を受け、一部修正している。「スポーツの分野について」は、59ページの、「イ 「三木山総合公園総合体育館」のオープン」の項目に記載している。前回からの変更はない。「文化の分野について」は、55ページ中ほどの「(6) 生きがいとうるおいを感じる文化の育成」

の「ア 歴史・美術の杜構想の推進」に平成30年3月に策定した「国指定史跡三木城跡及び付城跡・土塁整備基本計画」について記載している。前回からの変更はない。

一覧表の2ページの1項目目及び報告書16ページの、就学前教育・保育の推進について、内容をより具体的に、分かりやすい表現に改めた。一覧表2ページ一番下の項目及び報告書の21ページの「確かな学力の向上」について、平成29年度に重点的に取り組んだ内容が明記されていないという指摘を受け、「三木市学力向上サポート事業」を実施した各校の取組として、21ページ3行目の網掛け部分「各校とも主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の考え方や具体例を示しました。」という記述を追加した。また、家庭学習啓発資料（みきっ子家庭学習ガイド）を活用した取組として、12行目「平成29年度は、啓発資料の活用について校長研修会等で指導しました。」という記述を追加した。

一覧表の4ページ最下段及び報告書の42ページ中ほどに、「防犯訓練又は危機管理ハンドブックに基づいた危機管理対応の校内研修などの実施校数」の数値目標があるが、危機管理という観点から、目標値の達成年度を待たずに、研修を前倒しにして終わらせる必要があるとの指摘を受け、当該項目の数値目標における成果と課題の網掛けの記述を追加した。

平成28年度の点検・評価において、外部評価者から課題等の指摘を受けた箇所について、修正箇所一覧6ページの最上段及び報告書の16ページの「三木市幼保連携型認定こども園教育・保育共通カリキュラム」に基づく研修について、参加した保育者の満足度、理解度の検証を行う必要があると助言があったため、追加している。内容としては、研修参加者の意見を反映させ、その研修効果について、3か所の網掛け部分を追加した。

一覧表6ページ上から2つ目の項目及び報告書の17ページ最終行から18ページの最初の部分に、特定教育・保育施設の評価及び監査結果を受け、「保育の質」を確保していくための取組について、記述を追加した。

一覧表6ページ一番下の項目「家庭教育推進事業」について、報告書の47ページ下から9行目の「(2)地域・家庭の教育力の向上」に、家庭教育推進事業における参加者拡大に向け、平成29年度に取り組んだ内容について、追加した。

事務局で修正、追加等を行った部分として、報告書の13ページに、平成29年度教育委員会業務の歳出決算見込みに係る増減理由を追加した。

概要版の内容は本編の主な項目の抜粋で、各事業の実績を簡潔に記載している。また、平成29年度に定めた第2期三木市教育振興基本計画の各施策の数値目標を抜粋し、ページの最後に資料として添付している。

今後の予定として、今回協議いただいた内容に加筆・修正した後、外部評価者の評価を加え、9月の定例会で議案として提出する予定である。

(浦崎委員) 47ページの「地域・家庭の教育力の向上」の中で、48ページ「今後引き続き親が子育ての楽しさを実感し、親子の絆を深め、家庭の教育力の向上につながるような様々な取組を推進していきます。」とあるが、その効果は分かりにくく、数字として現れにくいと考えるがどう評価していくのか。

(西本教育長) 「家庭の教育力の向上」は、大事な部分であるが、効果を図りにくい事柄である。地域や家庭が子どもを育てて行く中で、教育委員会として様々な角度から支援していく必要があると考える。

(浦崎委員) 48ページの、子どもの安全・安心を見守る地域のボランティア「人の目の垣根隊」の会員数が、ここ数年減少しているにもかかわらず、32年度の目標数値が830名となっている。打開策が必要ではないか。

(大東教育センター所長) 広報への募集案内の掲載、保護者の勧誘、高齢者大学や老人クラブへの依頼等行っているが、新たな方策がないのが現状である。

(石井委員) 単に会員数を増やすだけではなく、例えば、31年度に向け、公民館単位で子ども達の支援や、登下校時における見守りの充実等について考えていただきたい。

(西本教育長) 保護者や学校と会議を持ち、今後の見守り活動について

の意見交換等を行っていることなどについて、内容の追加、修正ができないか、事務局で検討願いたい。

(奥村教育振興部長) 人の目の垣根隊の研修会を実施し、資質の向上を図るとともに、小・中学校においては、垣根隊が大きな力となっており、児童、生徒、教職員が感謝していることをお伝えし、会員の意欲の向上にもつなげたい。

(大北委員) 人の目垣根隊については、年に1回教育センターが主催し、各小・中学校の管理職、人の目の垣根隊、行政で意見交換会を行っているが、毎年、同じ出席者で、同じ話をしている。小学校では地区懇談会を実施している学校もあることから、そこに垣根隊の参加を求め、地区内の危険箇所や日々の見守り状況について保護者と意見交換ができれば、新たな会員の勧誘にもつながるのではないかと。

(西本教育長) 地区懇談会には、PTA、区長、民生委員、児童委員並びに人の目の垣根隊の方々が入っている学校もあると思う。人の目の垣根隊の皆様の活動が、より効果的なものになるよう、事務局としても工夫をお願いしたい。

(浦崎委員) 50ページの「平成29年度生涯学習講座実施状況」上段の乳幼児学級、家庭教育学級、家庭教育推進事業について説明願う。乳幼児学級は185回実施されており、延べ参加者数が5,067人となっているが、この数字は評価できるのか。

(河端生涯学習課主幹) 家庭教育学級は、幼稚園とタイアップして行っており、すべての公民館において年3回程度開催している。乳幼児学級は、少子化により開催回数は減少しているが、参加者である母親が中心になって実施しており、公民館はそのバックアップをしている。カリキュラムや内容なども、2年目、3年目の方が考え、リーダーとなり活動を継続している。

(岩崎教育振興部次長) 幼稚園では公民館の協力を得て、家庭教育学級の中で講演会等を開催している。保護者が希望する講演がある場合は、講師を幼稚園に招いている。その時は、保護者だけではなく、

地域でお世話になっている民生委員、児童委員、人の目の垣根隊の方々にも案内している。親子での交通教室を家庭教育学級を利用して行う場合もある。

(石井委員) 同じ言葉が重複して使われ、読み辛い箇所があるため、表現を工夫して欲しい。

36 ページに、「学校力」という言葉があるが、今まで言われていた「チーム学校」とその概念の違いはあるのか。

同じ36 ページの一番下の段落「イ 教職員のメンタルヘルスケア」の記載において、現在と過去が交錯している感があるため、文章を前後入れ替えるなど、分かりやすい表現に改めていただきたい。

(西本教育長) 文章表現をもう一度各所管課で確認する必要がある。36 ページの「学校力」と「チーム学校」の違いを説明願う。

(生田学校教育課長) 「学校力」とは、学校が持っている組織の力等のことで、「チーム学校」とは、その「学校力」を高めるための組織を作る体制をいう。例えば学校の教員だけではなく、他の専門的な機関の力を借りて行っていく体制のことである。

(西本教育長) 文章の下に「学校力」の注釈があれば分かりやすい。文章表現については、適切かどうか事務局各所管課で今一度確認願う。

(井口委員) 「学校園評価アンケートにおける児童生徒のアンケートの結果」の「学校に行くのが楽しい」「授業がよくわかる」「先生が話しかけてくれる」という目標値がなぜ100%にならないのか。

(生田学校教育課長) 100%に到達するまでに通過する地点も必要であり、まずこの数値をクリアすべきと考える。

(西本教育長) 数値目標に関して、28年度に第2期教育振興基本計画を策定する際に、「学校に行くのが楽しい」という項目に対する達成度合いが、当時87～88%であり、5年後にそれを100%にすることができるのかと考えた中で、数値目標を設定した経緯がある。

(井口委員) 報告書の「はじめに」の後頁で、「市民の生き活きと笑顔あふれるまちづくり」とあるが、この生き活きという漢字は常用漢字では使われていないため、「生き」もしくは、平仮名にすべきではないか。

(西本教育長) スポーツ振興ビジョンの中のフレーズを使用している可能性があるため、確認し、適切な表記に修正願う。

(井口委員) 43ページの「(5) 小規模校の良さを生かした学校規模に応じた教育環境の充実」の「ア 小規模校のメリットを生かした教育活動の推進」で、小中合同運動会を実施したということについて、肯定的に記載されているが、「小学校との合同運動会では力を出しきれない」と不満の声があったと聞いている。「イ 学校の適正規模・配置の検討」とするのであれば、メリットについて全面的に肯定するのではなく、否定的な意見があったことも記載すべきではないか。

(生田学校教育課長) 小規模校だからこそ小中合同で運動会を行っており、今回も合同で運動会を実施し、「良かった」という評価を前向きに捉えて記載した。

(井口委員) それでは現状でもよいと判断されないか。

(生田学校教育課長) 学校再編の話とは別に考え、今後のこととは少し切り離して考えたい。小規模校では、教職員あるいは地域の方が工夫しながら教育活動を行っており、それについての記載と捉えていただきたい。

(奥村教育振興部長) 小規模校の良さを生かそうとしているが、実際には難しい面もあったということについて、記載しておく必要があるため検討する。

(西本教育長) 第2期教育振興基本計画を策定した時と現在の事情が変わってしまっているが、項目としては、基本計画に記載しているため変更できない。現時点では、委員の意見を参考に再検討を願う。

(石井委員) 34ページの数値目標の「指標」に、「特別支援教育での個別の指導計画及び教育支援計画」とあるが、個別の指導計画と教育支援計画の違いを説明願う。教育支援計画は、29年度に目標値である75%をすでに達成しているが、32年度の目標値は変更しないのか。

(生田学校教育課長) 目標値は、計画策定時に27年度の実績に基づき設定したものであるため、変更は行わない。実績については、すでに目標を達成しているが、このまま上げていきたい。

個別の指導計画と教育支援計画については、それぞれ分かりやすい注釈を入れさせていただく。

(石井委員) 教育支援計画の目標値が100%ではないのはなぜか。

(生田学校教育課長) 本来、指導計画は必須であり、100%であるべきものである。現在94.2%であることは課題であり、100%に近づけていく必要がある。一方、教育支援計画についても、本来は100%であることが理想であるが、現実的では難しいところがある。しかし、少しでも100%に近づける必要があると考えている。

支援を要する子どもに対する計画は、学校だけではなく他の福祉関係機関等が関与する個別の教育支援計画と、学校で系統立てて取り組んでいく個別の指導計画の2つがある。地域、家庭、福祉や医療などが入ってくる個別の支援計画については、学校だけではなく、社会生活の中で必要になる計画であるため、100%に設定することは難しいが、100%に近づくようなサービスが入った計画になればと考えている。

(大北委員) 特別支援学級と通常学級があるが、特別支援学級に在籍している子どもたちについては、必ず「個別の指導計画」と「個別の教育支援計画」を作成する。特別支援学級では、保護者も子どものことを理解されており、様々な関係機関からの支援についても了承されている。関係機関の支援についても記載が可能で、100%作成できる。ただ、通常学級の中にも支援を要する子が多く、学校としてはその児童生徒の学校内での個別の指導計画は作れるが、さら

に、18歳、20歳までの教育支援を計画する際には、様々な関係機関からの支援が必要となる。それについては、通常学級では困難な部分がある。その理由として、親がそれを理解するかどうか、「うちの子には、まだその必要がない」という意識の方や、医療機関や相談機関の協力に対して保護者の理解を得ることが困難な場合もあり、数値目標が75%になっていると考える。親御さんの気持ちに寄り添いながら、100%に持って行くのが理想であるが、非常に難しいことであると考えている。

(西本教育長) 学校、そして学級も、保護者の意見を重視しており、それを考慮した上での目標設定であることをご理解いただきたい。

(大北委員) 26ページのいじめについて、29年度に数字が跳ね上がっていることに対して、「いじめについては、積極的に認知し、組織的に対応する指導体制づくりが進められ増加しました。」とあるが、増加したのは件数のことか。

(生田学校教育課長) 「進められ」の後に、「認知件数が増加しました。」と入れる方が正しい。

(大北委員) 「積極的に認知し」とあるが、28年度までは消極的な観察の仕方であり、28年度を否定する内容にもとれる。学校ではそのようなことはないので、「積極的」という言葉と表の下の「積極的に認知したため」という表現は、少し修正するべきと考える。

推測であるが、平成29年3月に県が「いじめ調査に関するガイドライン」を策定し、それと同じく「いじめ防止基本方針」をもう一度改訂した。このガイドラインにより、軽微なことでもいじめとして挙げるよう県の指示があり、その結果、数字が跳ね上がったのであれば、「県のいじめ調査に関するガイドラインに即して件数を挙げさせたことによって件数が増えました。」と、文章化すべきではないか。

(生田学校教育課長) 学校が全く認知をしていなかったのではなく、県のガイドラインに沿って、例えば、従来はけんかやふざけ合いとして捉えていたものを、いじめとして捉えて挙げるよう指示したため、

件数が増加したことなど、そこに至った経緯も含めて明記をする。

(西本教育長) 例えば、けんかの件数で1件挙げるところを、そのけんかの裏にいじめがあるかも知れないと教職員が思えば、けんかで挙げずにいじめで挙げる、というような趣旨のガイドラインの変更があったと考える。

(浦崎委員) 問題行動が発生した時、いじめとけんかの区別は、どのように整理しているのか。

(生田学校教育課長) いじめについては、確実に認知している。けんかは、双方から話を聞き、いじめとして認知すれば、いじめとしても件数に挙がってくる。いじめとけんかはダブルカウントすることもある。

(大北委員) 「いじめ」は、全国的にも学校現場や教育委員会にとって、重大なことであり、命に関わることでもあるので、慎重に記載する必要がある。この内容で議会に提出され、ホームページにも公開されるので、慎重な文章表現等をお願いしたい。

(西本教育長) 特に29年度は転換期であるため、相当の配慮が必要であると、事務局も認識しており、丁寧な議会への報告あるいは説明が必要と考えている。

本日のご意見を反映させ、もう一度、各所管で文章表現や注意書き等を校正し、概要版については、本編に連動させて加筆・修正をお願いする。精査したものを、外部評価者にお送りして評価をいただき、その内容を次回9月の定例会で審議いただきたいと思います。

日程第6 各課の所管事項について

(1) 教育施設課報告事項

○長池教育施設課長が次のように報告した。

学校施設整備工事等の新抄状況について、学校園施設長寿命化計画策定業務については、先月に引き続き、調査員による施設の老朽化調査を実施している。8月末ですべての学校の調査が終わり、9月からは各学校の改修にかかるコスト計算に着手する。上の丸保育所耐震補

強工事は、基礎コンクリートの増設工事が終わり、耐震壁の設置等に着手している。三木小学校とみなぎ台小学校の校舎トイレ改修工事は、便器等の撤去工事が終わり、配管のやり替え工事を行っている。今後は、土間復旧、洋式便器の取付け、トイレブースの更新等を行い、8月末に完成の予定である。

(2) 文化・スポーツ課報告事項

○森本文化・スポーツ課長が次のように報告した。

実施した事業として、体験教室「染形紙で染める」を7月28日に開催し、参加者は6人であった。企画展特別講演会「播州三木の染形紙」を8月4日に開催し、参加者は21人であった。体験教室「化石に触れよう」を開催し、参加者は17人であった。

今後の予定事業として、バレーボール選手強化練習会を8月18日に三木山総合公園総合体育館で開催し、デンソーテン女子バレーボール部が、小中学生にバレーボールの指導を行う。歴史講座「三木飛行場と赤とんぼ」を9月2日に、特別展「没後50年 上田桑鳩展」を9月4日から10月21日にかけて特別展説明会「上田桑鳩の作品解説」を9月8日に、特別講演会「上田桑鳩の人と書」を9月15日に開催する。

(浦崎委員) 特別展「没後50年 上田桑鳩展」では、何点の作品を展示するのか。

(森本文化・スポーツ課長) 展示作品は約50点であり、これまで展示されたことのない一般市民の方からお借りした、襖に書かれた作品も4点ある。

(3) 学校教育課報告事項

○生田学校教育課長が次のように報告した。

実施した事業として、第5回定例校園長会を8月3日に実施した。県中学校総合体育大会が7月25日から27日にかけて、近畿中学校総合体育大会が8月4日から10日にかけて開催された。教職員人権教育研修会を7月31日に実施し、270人の参加があった。低学年のイングリッシュキャンプを7月31日から8月2日にかけて実施し、59人の参加があった。富士山チャレンジ自然体験を、

8月6日から8日にかけて実施し、中学生14人、学校教育課職員3人が参加した。今年度より、学校閉庁を8月13日から15日までの期間、完全に学校を閉めて試行した。

今後の予定として、第6回定例校園長会を9月4日に開催する。人権の集いを8月19日に開催する。高学年のイングリッシュキャンプを8月20日から24日にかけて実施する。9月3日が2学期の始業式になる。9月10日から14日にかけて口吉川小学校と豊地小学校の5年生が、ホースランドパークで自然学校を実施する。運動会は、全中学校と志染小学校が9月15日、口吉川、豊地、自由が丘東、平田、志染を除く全小学校が9月22日、平田小学校が9月23日に実施する。教育委員の皆様には、体育大会、運動会の参加をお願いする。

(井口委員) 富士山登山については、私も過去に経験したが、参加者全員が高山病にもかからず、事故も無く無事下山したことを嬉しく思う。なぜ富士山チャレンジ自然体験をすることになったのか。

(生田学校教育課長) ゴルフ場利用税の協議会で、前市長が、静岡県的小山町長と交流があり、小山町が災害協定を結んでいる市町の中学生を対象に、富士山登山を実施されており三木市にも声がかかり、参加させていただいている。

(井口委員) 費用はどうなっているのか。

(生田学校教育課長) 静岡までのバス代などの旅費は市の予算から支出しているが、静岡での様々なおもてなしや登山ボランティアにかかる費用については、小山町に負担いただいている。

(石井委員) 運動会、体育大会については、今年は猛暑で、残暑が心配である。始業式も、通常より2日ほど遅く、体育大会の練習日程も短くなるため、先生方も練習に力が入るし、子どもたちもそこに向けて仕上げていこうと熱が入ると思う。熱中症対策について、今年は特に気をつけていただきたい。

(生田学校教育課長) すでに終業式の前から暑さが厳しくなっており、

校園長会を通じ、また文書でも、暑さ対策について指示を出している。終業式の時も、空調や扇風機を使用したり、時間を短縮するなど、各学校で暑さ対策を行った。始業式についても同様の準備をしている。これから始まる運動会の練習も、暑さ対策については意識を高く持って取り組むように指示している。

(4) 教育センター報告事項

○大東教育センター所長が次のように報告した。

実施した事業として、研修講座については、前回の報告から本日の2回を含めて8回実施した。相談関係は、7月の発達相談はなかった。適応教室には、7月末現在で11人が在籍している。

今後の予定として、研修講座を8月20日から10回実施する。適応教室は、8月27日から31日にかけて開催し、9月3日から2学期の通級を開始する。

青少年センターの事業として、みっきい夏まつりが中止になり、みっきい夏まつり特別補導は中止した。今後の予定として、施設研修会で、補導委員の業務とは直接関係ないが、8月22日に呑吐ダムを見学できる機会があり、適応教室の子どもたちにも声をかけ、一緒に見学する。青少年補導委員会第4回役員会を9月7日に開催し、その後、深夜補導を行う。

(5) 教育・保育課報告事項

○正心教育・保育課長が次のように報告した。

実施した事業として、三木市保育協会の理事会を8月2日に開催した。東播磨地区保育研究大会は、各市が持ち回りで当番市となり実施している事業で、8月4日に文化会館で開催し、参加者は750人であった。

今後の予定として、キャリアアップ研修を、8月18日に開催する。カリキュラム編集委員会は、現在、教育カリキュラムを用いて編集に取り組んでいただいているが、教育保育要領の改訂を受け、今後、保育現場で効果的に活用できるように、カリキュラムの中身を改定していく。保育教諭採用試験の2次試験を8月26日に実施する。特定教育・保育施設の監査に関する研修会を8月29日に実施する。同じく8月29日に、幼稚園教諭の研修会並びに専門研修講座として、「遊びから教科の学びへ」と題し、神戸大学の岡部先

生の講演会を開催する。9月に3園の評価を予定しており、午前中に開催する園については、教育委員会の計画訪問を兼ねて実施する。保育者交流研修会を9月5日にあけぼの認定こども園で実施する。三木市保育協会理事会が9月7日に開催される。

(浦崎委員) 保育教諭採用試験(2次試験)には、何名来られるのか。

(正心教育・保育課長) 4名の予定です。

(6) 生涯学習課報告事項

○河端生涯学習課主幹が次のように報告した。

実施した事業として、コミュニティ形成事業納涼大会・夏まつりについては、各地区、順調に開催された。東・北播磨地区公民館・社会教育委員合同会議が7月31日に播磨町中央公民館で開催され、社会教育委員長や代表公民館長などが参加した。

今後の予定事業として、PTA小、中学校清掃奉仕作業を8月19日の午前中に実施する。まなびの郷みずほの交流キャンプを8月21日から22日にかけて開催する。

公民館の今後の行事予定については、地区人権教育推進協議会事業として、9月ぐらいから住民学習を実施する。今年も全地区に対し、実施を要請している。

(7) 図書館報告事項

○伊藤図書館長が次のように報告した。

実施した事業として、三木飛行場展・展示解説を7月28、29日に開催し、参加者は25人であった。親子でわくわく・夜の図書館を8月2日に開催し、参加者は33人であった。かがく工作教室&おはなし会を8月5日に開催し、参加者は14人であった。

今後の予定事業として、絵本作家あべ弘士講演会を9月9日に開催する。講演会では、あべさんが旭山動物園に勤務していた当時の動物たちとのエピソードトークや、ご自身の絵本の読み聞かせを行う。この講演会を前に、8月25日にあべさんの絵本の読み聞かせと動物をモチーフにした工作を行う。人権ポスターの展示を8月20日から27日にかけて1階エントランスにて行う。この展示に合わせて、図書館フロアでも「ひとのきもちになって考えよう」のテ

ーマで、人権に関する資料の展示とチラシの設置も行う。

日程第7 次回定例会の開催日程について

教育長が、次回の教育委員会定例会の開催予定日程について諮り、平成30年9月19日、午後3時から開催することを決定した。

(非公開)

日程第4 第3号議案 三木市立認定こども園等の設置及び管理等に関する条例の一部を改正する条例の制定に係る教育委員会の意見について

第3号議案は、三木市教育委員会会議規則第5条第1項ただし書の規定により、非公開として審議したため、同規則第31条の規定により、内容については記載しない。

教育長が、第3号議案について採決を行い、原案のとおり可決された。

閉 会

教育長が、平成30年8月三木市教育委員会定例会の閉会を宣言した。